

国有林野所在市町村の魅力紹介

国有林野の所在している市町村は、自然豊かで、おいしい食べ物や名産品も多くあります。その魅力をふんだんに紹介しています。



岩手県いちのせきし一関市

岩手南部森林管理署

人口 102,044人 (R8.7.1現在) 面積 1,256.42km²

市町村の木 ブナ

市町村の花 なのはな

岩手県の最南端に位置する一関市は、仙台と盛岡の中間地点、東北地方のほぼ中心に位置しており、「中東北」という概念を提唱しています。また一関市は古来より交通の要衝として発展した町でもあります。

一関市には市が誇る二大景勝地があり、一つは市の東側にある日本百景げんぴけい猯鼻溪。もう一つが名將伊達政宗も愛した景勝地げんぴけいの厳美溪です。共に名勝天然記念物であり、猯鼻溪は1925年に、また厳美溪は1927年に指定されました。猯鼻溪は船頭が一本の竿で操船し、両岸にそそり立つ岩壁が続く溪谷を舟下りで満喫できる景勝地です。また厳美溪は大小の滝や奇岩、おうけつ甌穴という大胆な自然美を散策しながら堪能できる観光地です。共に四季折々に変化する風景を一年を通して楽しむことができます。



雪景色が美しい冬の猯鼻溪



溪谷を染める紅葉 秋の厳美溪

一関市には毎年、三大フェスティバルと呼ばれる3つの大きなイベントを開催しています。その一つである「全国地ビールフェスティバル in 一関」は8月下旬に開催され、全国から約50銘柄の地

ビールが揃い、約3万人の来場者で賑わいます。10月中旬には、国内熱気球競技の一つとして知られる「一関・平泉バルーンフェスティバル」と、もちの里一関の魅力を広く発信する「全国ご当地もちフェスティバル in 一関」が同時に開催されます。バルーンフェスティバルでは、毎年国内外から約25機の熱気球が集結します。また、もちフェスティバルでは、2万個の餅まきや約30種のもち料理・スイーツが来場者を楽しませ、秋の一関を盛り上げます。



秋空を彩る熱気球

一関市は2005年に8つの自治体が合併して誕生し、市内には季節ごとに表情を変える自然を満喫できるスポットが数多くあります。

一関市が誇るグルメの代表格が、豊かなもち食文化です。江戸時代から受け継がれてきたもち食文化には約300通りの食べ方が存在すると言われており、中でも伝統ある「もちお膳」は市内の飲食店で味わうことができます。また、からあげや鶏ハラミ焼き、ハム、ソーセージ、地ビールなどのご当地グルメも充実しており、一関ならではの味覚を堪能できます。



一関が誇る郷土の味 もちお膳
より詳しい
市町村の魅力はこちらから→



お問合せ先：(一社)一関市観光協会 Tel.0191-23-2350